



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらぼと

# 2009.11

No. 307

日本野鳥の会 埼玉県支部

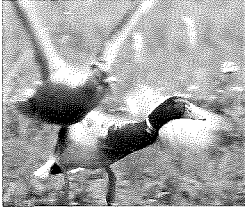
S H I R A K O B A T O



# といとめもなくカモの話

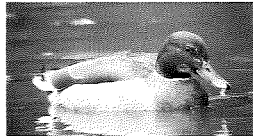
海老原美夫(さいたま市)

カモは雑種ができることが多いとよく言われます。例えばマルガモ。マガモとカルガモの雑種のことです。通称というか冗談名かと思っていたら、三省堂『世界鳥名事典』にもちゃんと載っていました。びっくり。



2008年5月初めからカルガモ1羽と一緒に飛ぶマガモ♂1羽を、さいたま市桜区大久保農耕地で度々みかけました。

そしてその年の12月、近くの秋ヶ瀬公園内の池で、若いマルガモ♂1羽が泳いでいました。くちばしはカルガモ、その他はマガモです。これがあの2羽の間に生まれたことが分ると楽しいのですが、ちょっとそこまでは無理ですよ。



2009年6月から8月にかけては、オシドリ♂1羽がカルガモの群れと一緒に行動し、越冬していました。多分だめだと思うけど、もしオシドリとカルガモの雑種が生まれたら、なんと呼べばいいんでしょうね。オシカル？ 言いにくいよ。

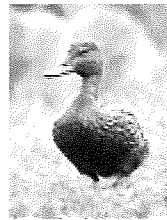


なぜカモは雑種ができやすいのでしょうか。他の鳥類ではあまり聞かないですよ。あ、そうそう、シギ類では、独立種、英名Cox's Sandpiper、学名 *Calidris paramelanotos* (和名不明) として発表されたのが、その後のDNA解析で、アメリカウズラシギ♂とサルハマシギ♀の雑種と判明した例など、いくつかあると聞いたことがあります。カモ類ほど多くはないですよ。[種]の区分のひとつに、繁殖して子孫を残すことができるかどうかという点がありますが、カモ類ではその辺がよく

分らなくなります。

そもそもカモたちの♂が色鮮やかな繁殖羽に身を飾るのは、複数の種のカモが同じ地域で繁殖するときに、**種の混同**が起これないようにするためであり、カルガモは日本国内で繁殖し、同じ地域で他種のカモは繁殖しないので、♂は♀と違う繁殖羽にならないのだ、という話は聞いたことがありますよね。

同じような話が海外にもあります。ハワイ



**のカウアイ島**で見た、ハワイガモというマガモのハワイ型固有亜種。このカモも、繁殖時季に他種のカモ類はいないので、繁殖羽にならず、じみ〜なまんまで。

つまりこれらの話は、カモ類が同じ地域で同じ時季に繁殖行動をしていると、他種との混同がよく起こりやすいことを物語っており、カモの♂たちは、しないですむならすませたいのに、しょうがないから、繁殖羽に衣替えているということなんでしょうね。

ところで、最近「雑種」のことを「**ハイブリッド**」ということがよくあります。確か、生物学的に言う「ハイブリッド」は、異種を人工的に掛け合わせて作った新種のことで、ヒョウとライオンの間のレオポン、ウマとロバの間のラバなどのことを言うと、私は記憶しています。つまり「ハイブリッド」という言葉には、「人工的に作った」というニュアンスを感じるものですから、野生の鳥の雑種を「ハイブリッド」というのは、個人的には好きではありません。

とまあ、個人的な好みのお話で脱線せずに、カモの話に戻しましょう。

今まで**海外で見たカモ**のうち、最も記憶に残っているのは、北極海に面する**ノルウェー北端の町**で見たホンケワタガモ、ケワタガモ、

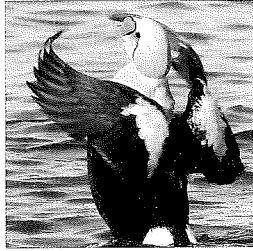
コケワタガモの3種です。ホンケワタガモを「本家・綿鳴」と言わないでください。そう



すると「元祖・綿鳴」や「分家・綿鳴」なども探したくなるじゃないですか。正しくは「本・毛

綿鳴」です。日本ではまだ記録がないので、日本人には人気のある鳥です。

ケワタガモは北海道で観察されたことがあります、その英名は、King Eider。「King」です。それに対してホンケワタガモの英名は、Common



Eider。「King」と「Common」では格が違います。現地では「King」の方が人気があるようです。

コケワタガモは、連泊したホテルが港に面していたので、毎朝窓の外に群れを見ること



ができました。日本から一緒に行った案内人は、「パンツいっちょでコケワタガモの群れが見えた」と喜んで

いました。北日本にまれに飛来します。

その他の国では、例えばニュージーランドには、私の写真が残っているだけでも、クロ

アカツクシガモ(右写真)、ニュージーランドスズガモ、チャイロコガモの3固



有種に、マジシロカルガモ、ミカツキハシビロガモ、ハイイロコガモがいました。

ケニアのキバシガモ、南アフリカのネズミガシラアカツクシガモ、アフリカオタテガモ、ケープハシビロガモ、アカハシコガモなども印象に残っています。モンゴルでは、日本で

も見るアカツクシガモやツクシガモが、ひときわ鮮やかな婚姻色に変身していて、目を見張りました。

が、やはりカモ類というと、北国でしょう。カナダ・バンクーバーでは、日本で数少ないクビワキンクロやヒメハジロ(右写真)を間近にたっぷり観察することができました。ホオジロガモとキタホオジロガモが並んでいます。アメリカヒドリもうじゃうじゃいます。そんな中、現地の野鳥ガイドが、大変珍しいカモが来ているからぜひ見てほしいというので行って見たら、私たちにはおなじみのヒドリガモでした。場所が違えば珍しさの基準が違う、見本のような話です。



世界のカモ科はカササギガン亜科、ガン亜科、カモ亜科に分れ、カモ亜科は36属124種。日本のカモ亜科は13属39種です。その内何種見たかなんて聞かないでください。私は自分の見た種数をカウントしていません。何種見たかを励みにするのも鳥見人、見て、楽しんで、そのエッセンスだけを暖めて、何種見たかにはあまり重点を置かないのも鳥見人だと思っています。ただのずぼらの言い訳っぽいけど、ま、いろんな人がいますから。

カモっていいですよ。いや、そっちのカモじゃなくて、鳥のカモです。どこの国でも、水辺でカモたちに出会えれば、少しほっとします。ゆっくり見やすく、識別に苦勞することもあまりないですから。

11月、カモが本格的に飛来する季節です。防寒具をしっかり身にまとい、カイロと熱いお茶を用意して、さあ出かけましょう。鳥見の合間に、日本のカモたちは、世界のカモたちの一部なんだということをちらっと考えてみれば、気持ちが少し広がるし、目の前のカモがどこかに飛んで行けば、その地では珍鳥として騒がれるかもしれないなどと想像すると、結構楽しくなりませんか。

# 2009年冬 カワウの生息数調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

2009年1月10日～12日、カモ科調査と同時に実施されたカワウの昼の生息数調査（餌場周辺の個体数）を報告する。

2007/2008年冬から狩猟鳥化され、有害鳥獣捕獲が実施された。関東カワウ協議会（環境省）の調査では、入間川や荒川の溪谷

への進出、群馬県、栃木県、茨城県への移動など、県平野部から他地域への生息地や時の分散が、より一層著しくなりつつあることが分りはじめています。

（文責 小荷田行男）

調査地	調査範囲	地域	2004	2005	2006	2007	2008	2009
入間川	豊水橋～新富士見橋	狭山市	2	2	5	3	1	3
	初雁橋～雁見橋	川越市	5	-	-	-	-	-
荒川	荒川鉄橋～戸田橋	戸田市・川口市	3	300	165	6	11	3
	道満(荒川第一調整池)	戸田市・さいたま市	136	503	193	79	176	385
	秋ヶ瀬橋～羽根倉橋	さいたま市	3	5	0	0	0	0
	南畑排水機場びん沼川	さいたま市・富士見市	9	6	0	29	11	10
	荒川大橋～明戸堰	熊谷市	-	6	4	-	-	8
	玉淀ダム	寄居町	2	0	0	7	9	19
そうか公園	池全部	草加市	6	0	1	-	-	-
古利根川	寿橋～堂面橋	越谷市・松伏町	2	5	3	1	3	0
	藤塚橋～古利根橋	越谷市・春日部市	-	0	5	-	3	0
利根川	坂東大橋下流	本庄市	-	8	46	6	0	4
渡良瀬遊水地	貯水池	北川辺町	307	992	459	883	424	208
狭山湖	湖全部	所沢市	-	68	3	8	17	26
小畔川調整池	池全部	川越市	1	0	0	0	12	12
新河岸川	川崎橋～寺尾調整池	川越市	3	1	7	2	4	4
大宮第三公園	池全部	さいたま市	-	-	-	5	1	0
大吉調整池	池全部	越谷市	-	-	-	6	5	5
百穴湖	池全部	吉見町	7	5	3	16	3	9
武蔵丘陵森林公園	公園内の池全部	滑川町	136	191	19	112	304	288
大沼公園	大沼	熊谷市	0	0	0	0	0	0
川越水上公園	池全部	川越市	-	2	15	8	6	6
八丁湖	池全部	吉見町	4	-	0	0	0	1
県立農林公園	芳沼	深谷市	0	0	0	0	0	0
昭和沼	久喜菖蒲公園	久喜市	42	24	63	41	-	-
さきたま古墳公園	公園の池全部	行田市	2	0	0	0	0	1
白幡沼	沼全部	さいたま市	0	0	0	0	0	0
見沼自然公園池	池全部	さいたま市	3	0	1	3	2	3
柳瀬川	富士見橋～栄橋	富士見市・志木市	1	1	1	1	0	0
黒浜沼	上沼	蓮田市	0	8	4	-	0	9
元荒川	城北大橋～水管橋	さいたま市	2	0	1	2	6	4
赤堀遊水池	池全部	桶川市	20	22	18	15	-	18
緑の丘公園	池全部	松伏町	-	-	0	0	6	0
宝蔵寺沼	池全部	羽生市	-	-	1	10	3	3
越辺川	八幡団地前	川島町	-	-	8	6	8	3
芝川	山口橋～八丁橋	さいたま市	-	-	-	-	5	4
加田屋川	七里公園～加田屋橋	さいたま市	-	-	-	-	0	4
見沼代用水東縁	七里公園～山口橋	さいたま市	-	-	-	-	0	0
見沼代用水西縁	浦和西高～附島橋	さいたま市	-	-	-	-	0	2
行田浄水場	池全部	行田市	-	-	-	-	-	11
元荒川	今宮橋～清掃局	蓮田市・白岡町	-	-	-	-	-	3
大宮公園ボート池	池全部	さいたま市	-	-	-	-	-	0
合計			696	2,149	1,025	1,249	1,020	1,056



## 野鳥情報

**久喜市久喜菖蒲公園** ◇7月29日、昭和沼に浮かぶ浮島は今の季節サギの罫となつてにぎやかだ。夕涼みを兼ねて行ってみた。現地着午後6時30分。ダイサギ、チュウサギ、コサギ、繁殖羽のアマサギもいる。数は少ないがアオサギもチラホラ。その数約200羽。観察中も上空から5羽、10羽とキリミ状態で落ちてくる。1羽、2羽と飛び去っていくのはゴイサギだ。人影も無くなった午後7時、300羽は超えていただろう（長嶋宏之）。

**羽生市羽生水郷公園** ◇7月29日、モズの巣立ち雛が芝生広場でバッタを追っていた。なかなかつかまらず、何度も何度も繰り返していた。コアジサシが1羽、水面をかすめて飛んだ。ハシボソガラスの幼鳥が2羽、親に甘えていた。カイツブリの繁殖羽がきれいだった。カワラヒワが1羽、梢で仲間を呼んでいた。8月29日、トケン類（編集部注：カッコウ科の鳥のこと）が頭上を飛び抜けラクウショウの樹に飛び込んだ。セッカがハギの枝先でさえずり、ヒバリ3羽



5月27日、立山室堂でライチョウを撮影してきました。（大塚一男）

が草影で口を開けて休んでいた。その他、ダイサギ10羽、チュウサギ1羽、ゴイサギ成鳥1羽、幼鳥3羽。カワセミ1羽、ホオジロ2羽、カワラヒワ4羽、モズ成鳥1羽、幼鳥2羽。ヒヨドリ2羽、オナガ10羽十、カルガモ50羽十（長嶋宏之）。

**蓮田市西城沼公園** ◇7月30日、小型のタカが数羽のカラスに追われて、屋敷林に消えた。コジュケイが大きな声で鳴いていた。探すと目が合い、しばらくにらめっこ。電線に200羽のムクドリの群れが止まっていた。8月13日、トケン類が屋敷林に飛び込んだ。ツツドリか？ 8月18日、トケン類1羽、ツミ1羽、公園の樹の間に飛び込んだ。9月8日、コムドリ30羽十がオナガ30羽十と一緒に桐の木の中を群れ飛んで採餌（長嶋宏之）。

**越谷市大成町** ◇8月5日午後3時、ヨシゴイ、低空で飛んできて、アシ原に入る（小菅靖）。

**越谷市大道調節池** ◇8月5日午後5時30分、セイタカシギ2羽、イソシギ1羽、ハクセキレイ2羽、シラサギ類12羽。ツバメ50羽位が池の上を低空で飛んでいた（小菅靖）。

**越谷市七佐町8丁目** ◇8月23日午後5時14分、家庭菜園で雑談していたら、シラコバト1羽飛来、電線にとまる。羽繕いして飛び立つ。1～2分の出来事。越谷市内で久しぶりにシラコバトを観察した（小菅靖）。

**春日部市倉常** ◇8月6日、ムナグロ4羽、イソシギ3羽、クサシギ5羽、アオアシシギ4羽、コチドリ約30羽。8月10日、アオアシシギ2羽、キアシシギ5羽、イソシギ1羽。8月26日、アオアシシギ3羽、タカブシギ3羽、ヒバリシギ1羽など。8月28日、アオアシシギ2羽、キアシシギ1羽、ヒバリシギ2羽など。9月2日、セイタカシギ成鳥3羽、若鳥3羽。アオアシシギ3羽、タカブシギ1羽。9月3日、セイタカシギ成鳥3羽、若鳥3羽。アオアシシギ3羽、タカブシギ1羽。9月8日、アオアシシギ3羽、タカブシギ1羽、タシギ3羽、エリマキシギ幼鳥♂1羽。9月9日、アオアシシギ1羽、タカブシギ1羽、タシギ2

羽、エリマキシギ幼鳥♂1羽。セイタカシギ1羽、コチドリなど。9月14日、ツバメチドリ冬羽1羽発見。初め畔にいたが、飛んで水面に降り立つ。飛んだ時、翼下面の赤っぽい色が見えた。その他タシギ2羽、イソシギ2羽など（鈴木紀雄）。

**川口市西新井宿** ◇8月8日、コムクドリ15～20羽の群れ、盆の季節になるとやってくる。この鳥を見ると夏本番という気がする。

8月15日、サシバ5羽、移動途中？の個体が立ち寄ってくれた。5羽だけでも小さなタカ柱を作ってくれて、感動（須崎聡）。

**さいたま市桜区秋ヶ瀬公園付近** ◇8月14日、オシドリ♂成鳥エクリプス1羽がカルガモ数羽とともに行動。遠くないところで6月12日に成鳥夏羽1羽がやはりカルガモ数羽と行動をとともにしているのを観察している。多分同一個体が越夏。8月20日、23日、ハジロカイツブリ成鳥1羽。夏羽から冬羽に換羽がはじまっている。8月22日、オオジシギ1羽。尾羽その他の羽衣、大きさなどから同定。翌日、その水たまりは干上がっていた。8月23日、ホシハジロ♂成鳥1羽。くちばし全体が鉛色のタイプ。8月25日、ピクニックの森でメジロ、シジュウカラの混群の近くに、コサメビタキ1羽。9月2日、三ツ池付近上空をハチクマ1羽。カラスのモビングをかわして南東方向に飛び去った（海老原美夫）。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇8月23日、シジュウカラ、コゲラの混群にエナガとセンダイムシクイが2～3羽ずつ入っていた。9月2日、オオタカがカラス30羽程にモビングされ、森に飛び込んだ。9月7日、茂みの中にヒヨドリ大の鳥、全身赤茶色で目の回りにマガタマ状白斑。ガビチョウ！ここでは初認（鈴木紀雄）。◇9月5日、サシバ1羽、飛翔。薄暗い林の中、ヒグラシ（セミ）♂が早ににじり寄って行って交尾（藤原寛治）。

**さいたま市岩槻区東岩槻** ◇8月25日午前10日40分、シラコバト1羽、車で移動中目の前を通過して樹木にとまった（小菅靖）。

**さいたま市岩槻区平林寺** ◇9月5日午後2

時頃、赤坂沼周辺でアマサギ1羽、コサギ4羽、キセキレイ1羽、ハクセキレイ6羽、スズメ多数、ムクドリ大群（本多己秀）。

**深谷市本田** ◇8月22日、荒川白鳥飛来地右岸の林でホトトギス♀赤色型1羽。最初はヒヨドリ？と思って、葉の無い枝に止まっているのを観察した。赤茶色の頭部に斑模様は目立たず、下面の横斑は比較的少ないのを確認した（鈴木敬）。

**鴻巣市大間一丁目** ◇8月27日、目の前をすうっとショウドウツバメが1羽。電線にはコムクドリ♂若鳥も1羽。自宅ベランダより見る。ラッキー～！（榎本秀和）。

**加須市船越** ◇8月29日、ダイサギ5羽、コサギ3羽、アオサギ2羽、ゴイサギ成鳥5羽、幼鳥17羽。カイツブリ1羽、カルガモ3羽、セッカ2羽（長嶋宏之）。

**菖蒲町小林** ◇9月4日、電線にズラッとショウドウツバメ約500羽。一斉に飛び立ち乱舞（鈴木紀雄）。

**騎西町中種足** ◇9月4日、全身にまだら状に白色部のある色素異常のハシボソガラス1羽（鈴木紀雄）。

**さいたま市緑区宮本** ◇9月5日午前7時30分～8時、案山子公園でツツドリ1羽、飛翔中を確認（船木数樹、新井勇他2名）。

**坂戸市入西** ◇9月6日午後5時50分頃、こはるが池中ノ島の低木に、ダイサギ、コサギの群れ約60羽。罅にしているようで、きりもみ下降でつぎつぎ罅入り。バスの車窓から見る（増尾隆）。

**滑川町・武蔵丘陵森林公園** ◇9月9日、コガモのエクリプス1羽、今季初認。カワセミ、ダイサギ140羽＋、コサギ4羽＋、チュウサギ40羽＋、アオサギ2羽、カワウ多数。その他、ツバメ2羽、カイツブリ2羽、ガビチョウがうるさいほど鳴いていた（長嶋宏之）。

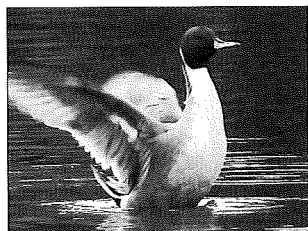
#### 表紙の写真

スズメ目ツグミ科ルリビタキ属ルリビタキメスの可愛らしさを再認識した1枚です。

鶺鴒喜雄（深谷市）



## 行事案内



オナガガモ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50円、一般 100円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

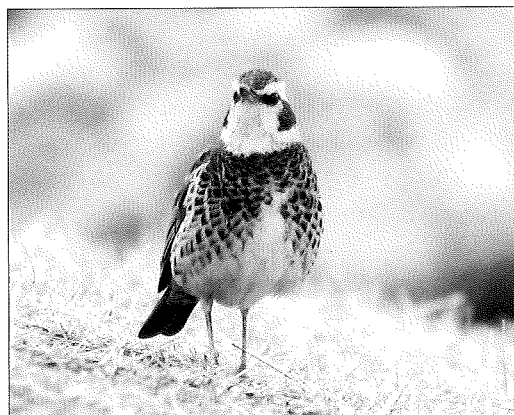
期日：11月3日(火・休)

集合：午前9時20分、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。

交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口、茨城急行バス③番乗り場から松伏町役場行き8:47発で、「まつぶし緑の丘公園」下車。

担当：橋口、田邊、吉岡(明)、榎本(建)、植平、野村(弘)、野村(修)、小林(善)、森下、進士、佐野、佐藤

見どころ：公園はオープン3年目を迎え、多くの人が訪れるようになりました。今シーズンから年2回の探鳥会を行います。公園内の池ではカモやカイツブリを観察し、近隣の屋敷林を巡り冬の小鳥や、めっきり減ったシラコバトを探します。お弁当持参でアフターも楽しみましょう。



ツグミ(久保田忠資)

### 上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月7日(土)

集合：午前8時、丸山公園北口駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口1番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:32発で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、浅見、阿久沢(キ)、阿久沢(廣)、立岩、永野(安)、山野、長谷川

見どころ：公園の木の葉も色づき始め、冬鳥の季節。ジョウビタキやツグミを探して歩きましょう。荒川河川敷ではオオタカとの出会いが楽しみ。池のカワセミも皆様をお待ちしています。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月8日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:49発に乘車。

担当：千島、森本、中里、大澤、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、鶴飼、岡田

見どころ：飛来したばかりのジョウビタキ、ツグミ、ベニマシコを探しましょう。明戸堰の工事は終わりましたが、昨年からの給餌が中止されたコハクチョウは、今年も来てくれるでしょうか。

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：11月15日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木

見どころ：11月はきらきらとした季節。見沼田んぼ周辺も黄金色の木々に囲まれて秋の光に満ち、冬鳥も勢ぞろい。三室の探鳥会から新しい仲間を増やしたい。ぜひ新しい人を連れてお出かけ下さい。ご満足を請け合います。

### 嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：11月15日（日）

集合：午前8時40分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時10分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。

交通：東武東上線川越7:43発、寄居8:10発に乗車。

担当：後藤、大澤、青山、新井(巖)、倉崎、中村(豊)、林、千島、鶴飼

見どころ：落ち葉を踏みながら冬鳥たちを探しましょう。シメ、イカル、カモたちも姿を見せてくれるでしょう。

### 春日部市・内牧公園探鳥会

期日：11月21日（土）

集合：午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部駅西口、朝日バス③番乗り場から、国民年金春日部エミーンナス行き8:53発で「共栄大学・短大前」下車。西へ徒歩3分。

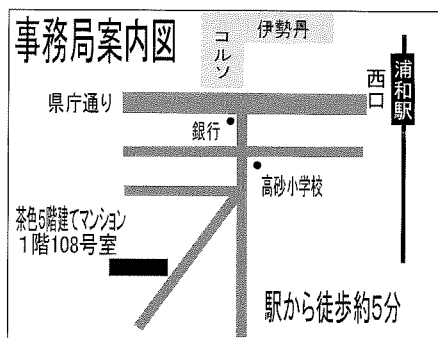
担当：石川、吉安、橋口、新井(良)、宮下、吉岡(明)、野村(弘)、野村(修)、進士

見どころ：昨年はアトリが多数やってきました。今冬はどんな鳥が？ 定番のアオジ、コゲラ、シメ、タゲリ、ツグミらとの再会も楽しみです。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月21日（土）午後3時～4時ころ

会場：支部事務局108号室



### さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：11月22日（日）

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：浅見、工藤、兼元、松村、赤堀、金子、船木、新井(勇)

見どころ：見沼代用水東縁と加田屋川の両側に広がる見沼田んぼ、畑、斜面林で野鳥探しを楽しめます。公園の池にはカモも勢ぞろい。都会の近くに残された身近な自然にどっぷりと浸かりたい方、ぜひご参加を！

### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：11月22日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:44発、所沢8:39発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、石光、山田(義)、山口、星、水谷、間正

見どころ：セキレイの仲間5種を探しましょう。河原、雑木林、屋根の上・・・同じ仲間でのいろいろなところにいます。5種揃い踏みは冬の間だけ。

### 本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：11月23日（月・休）

集合：午前9時20分、「坂東大橋南詰」近くの「つきみ荘」北側。（「つきみ荘」内には駐車できません。）



交通：JR 高崎線本庄駅北口から、国際十王バス 9:06 発伊勢崎行きで「坂東大橋南詰」下車。

担当：新井(巖)、倉崎、鶴飼、小池(一)、小池(順)、藤田(裕)、小淵、岡田、千鳥  
見どころ：レジャーの多様化で休日の利根川の鳥見環境は万全とは云えませんが、それでもきっと冬鳥たちは待っていてくれるはず。今年は何が出迎えてくれるでしょうか。

ご注意：河原を歩きますので、足拵えはしっかりと。仮設のトイレはありますが、駅などで済ませておきましょう。

### 志木市・柳瀬川探鳥会

期日：11月28日(土)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパー・サミット前の円形広場。

担当：持丸、佐久間、高草木、志村、神場、中村(治)、中村(祐)、荒木、山田(義)、杉原、山口

見どころ：昨年までは11月初旬の日程でしたが、今年から11月末に変更になりました。それだけ冬が進みます。カモ、セキレイ、シギ・チドリ、ツグミ、ジョウビタキなどを探しながら、柳瀬川の土手を散策しましょう。

### 栃木県・奥日光探鳥会(要予約)

期日：11月28日(土)

集合：午前7時、JR 大宮駅西口ソニック大ホール前広場。

交通：往復とも貸し切りバスを利用。

帰着：当日午後7時ころを予定。

費用：5,000 円の予定(バス代、高速料、保険料など)。過不足の場合は当日精算。

定員：30名(先着順、県支部会員優先)、最少催行人員は25名。

申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢(保険加入で必要)、電話番号を明記して、入山 博

まで。

担当：入山、玉井、藤澤、星

見どころ：「オオワシが飛んだ!」「窓の外に

オジロワシ!」。昨年は歓声と感動で盛り上がりました。今年は何で盛り上がるか楽しみです。

注意：この時期の奥日光はすでに平地の真冬並です。防寒支度はしっかりと。

### 蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月29日(日)

集合：午前8時40分、JR 宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、吉安、田中、長嶋、長野、菱沼(一)、榎本(建)、青木

見どころ：黒浜沼周辺は、アシ原、屋敷林も晩秋の装い。北国から帰ってきた小鳥たちでにぎやかになります。今年もアリスイが訪れてくれるでしょうか? オオタカも勇姿を見せて欲しいですね。

### さいたま市・秋ヶ瀬公園自然観察会

期日：11月29日(日)

集合：午前9時、秋ヶ瀬公園ピクニックの森駐車場。

交通：浦和駅西口から大久保浄水場行きバス 8:20 発、または東武東上線志木駅東口から、与野駅西口行きバス 8:25 発で、「下大久保」下車、徒歩約8分。

ゲスト講師：山本裕(本部自然保護室)

担当：小荷田、佐久間、杉原、藤田(敏)、船木

見どころ：探鳥会ではありません。研究部担当、自然観察の勉強会です。今回のテーマは「スポットセンサー鳥の数の調べ方」。「ある地域に何が何羽いるか」を知るために、1ヵ所にとどまって周りにいる鳥を数えるやさしい調査法です。



シメ



## 行事報告

3月14日(土) 神奈川県 城ヶ島

参加：28名 天気：雨、強風

コアホウドリ オオミズナギドリ フルマカモメ  
 ウミウ トビ トウゾクカモメ セグロカモメ  
 オオセグロカモメ シロカモメ ウミネコ ミツ  
 ユビカモメ カンムリウミスズメ ウミスズメ  
 ハクセキレイ ヒヨドリ ウグイス ホオジロ  
 スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (20  
 種) 低気圧接近のため、現地は台風並みの荒れ模  
 様。普通なら当然、中止にするところだが、今回  
 は貸切バスなので、決行するしかない。幸い、地  
 元の「城ヶ島海鳥観察グループ」が屋内で観察で  
 きる場所を手配して下さった。これがなかったら、  
 暴風雨の中、どうなっていたことやら……この嵐  
 が、沖から海鳥を連れてきた。コアホウドリ、ト  
 ウゾクカモメなどが岸近くを飛ぶという珍風景が  
 見られた。しかし狭い部屋からの観察だったので、  
 十分に見られなかった方もいたのが残念。昼頃ま  
 で観察した後は、三崎港名物のマグロなど海の幸  
 を味わう。最後にお土産も買って、嵐の中の探鳥  
 会は無事、終了。(小林みどり)

4月12日(日) 所沢市 狭山湖

参加：42名 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カワウ アオサ  
 ギ マガモ コガモ カルガモ トビ オオタカ  
 ノスリ コジュケイ コチドリ キジバト アオ  
 ゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ  
 タヒバリ ヒヨドリ ヒレンジャク アカハラ  
 シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メ  
 ジロ ホオジロ アオジ アトリ カワラヒワ  
 マヒワ シメ スズメ ハシボソガラス ハシブ  
 トガラス (36種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 水  
 鳥に多くを期待出来ない時期であり、林地中心の  
 コースを採った。これが功を奏し、アトリ、マヒ  
 ワ、ヒレンジャクと当探鳥会初記録の冬鳥が続出  
 して一同大喜び。狭山湖では、鮮やかな夏羽のハ  
 ジロカイツブリが今季のフィナーレを彩ってくれ  
 た。(石光 章)

4月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加：46名 天気：晴

カワウ カルガモ トビ オオタカ コジュケイ  
 キジ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ ツ  
 バメ ハクセキレイ ヒヨドリ シロハラ ツグ  
 ミ ウグイス ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ  
 メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ マヒワ  
 シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラ  
 ス ハシブトガラス (30種) (番外：ガビチョウ)  
 荒川土手には5～6分の桜が残り、ヒヨドリやス  
 ズメが群がる。また、ゴルフ場の芝には、これか  
 ら旅立つツグミが採餌に忙しく動き回る。また、  
 新芽の美しいクヌギにはマヒワが数羽。上空には  
 オオタカ、トビ等も出現。途中の林内ではシロハ  
 ラが姿を見せてくれた。(後藤康夫)

4月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：8名

新井浩、池田泰右、海老原教子、大坂幸男、佐久  
 間博文、志村佐治、千野安以、藤掛保司

4月19日(日) さいたま市 三室地区

参加：72名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ  
 ギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ  
 オオタカ チョウゲンボウ キジ オオバン コ  
 チドリ イソシギ タシギ キジバト カワセミ  
 ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ  
 ヒヨドリ ツグミ ウグイス センダイムシクイ  
 セッカ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワ  
 ラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシブトガラ  
 ス ハシボソガラス (36種) 桜が散って青葉の代  
 用水で、いつものように休憩。先月のヒレンジャ  
 クの初出現を思い出しているとセンダイムシクイ  
 の鳴き声がする。青葉の中で、見え隠れしていた。  
 2ヵ月続いて初出現の鳥が出て、全員満足した。  
 新学期で参加者も多かった。(梶見邦博)

4月25日(土) さいたま市 田島ヶ原自然観察会

参加：4名 天気：雨

折からの二つ玉低気圧接近で雨。リーダーのみ集  
 合。サクラソウ自生地はヨシが高さ60cmを超えて  
 いる。それでもピンクの様々な色合いのサクラソ  
 ウが、シロバナサクラソウが、雨に打たれ咲いて  
 いる。トダスゲ、スイバ、ハナウド、キツネアザ

ミ、アマドコロが開花中。自生地は乾燥化が進み、乾燥を好む植物が勢力を増している。大正期以前、自生地は蛇行する荒川の川辺であったが、直線化工事で離れてしまった。彩湖北岸にある植生実験区へ行く。サクラソウが水浸しのヨシ湿原でひっそりと咲いている。こちらがサクラソウ本来の生育環境であろう。(小荷田行男)

4月25～26日(土～日) 神泉村 城峯公園

参加：25名 天気：25=雨、26=晴

カワウ アオサギ マガモ カルガモ トビ ノスリ キジバト アオバト フクロウ アマツバメ ヤマセミ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ カワガラス クロツグミ ヤブサメ ウグイス エゾムシクイ センダイムシクイ キビタキ コサメビタキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ マヒワ イカル スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(43種)(番外：ガビチョウ) 初日はあいにくの雨。宿のマイクロバスで下久保ダムに入り、ダム湖畔からヤマセミを探すも見つからない。早々に宿に入り、露天風呂や鳥談義で過ごした。翌朝4時起床で外に出るとフクロウの歓迎。夜明けのバードコールもガビチョウが占領する中、城峯公園ではキビタキ、センダイムシクイやアオバトが出現、展望台からダムサイトにヤマセミの姿を確認した。朝食後ヤマセミを堪能、三波石峡ではエゾムシクイ、カワガラスとトリ三昧。(橋口長和)

4月26日(日) 東松山市 物見山

参加：34名 天気：晴

カワウ トビ オオタカ コジュケイ キジ キジバト ツツドリ アマツバメ コゲラ ツバメ ビンズイ ヒヨドリ モズ ウグイス センダイムシクイ キビタキ オオルリ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(29種)(番外：ガビチョウ) 雨上がりでいっそう鮮やかになった新緑の森を歩いた。ほとんど騒音に近いガビチョウの声を心配してスタートしたが、だいぶ静かな日に当たったようだ。キビタキやオオルリのさえずりが聞こえてきた。しかし新葉がだいぶ開いてしまって

おり、野鳥の姿を見つけるのは難しかった。入山沼付近はこの日、里山保全のための樹木伐採作業が行われており、アオグラはとうとう出てこなかった。里道に下りると青空に何回もオオタカが舞った。そして同じ視界にアマツバメの姿も。いつもの岩殿観音の参道を迂回して、今回は大学北側の遊歩道を上がり、ツツジ見頃の物見山で鳥合わせを行った。(中村豊己)

4月26日(日) さいたま市 秋ヶ瀬公園

参加：58名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ キジ コチドリ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ ウグイス オオヨシキリ セッカ キビタキ オオルリ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(33種) 鴨川機場では、サギ3種、カワウ、イソシギ、オオヨシキリを見て、川を渡り、土手の上へ。ここからは何も見えない。下って田んぼの中に行く。キジ、ダイサギの青い目元がきれいだ。公園に入ってキビタキ、オオルリが。今年の鳥は鳴いてくれない。それでも半数以上の人が見た。よかった!?(倉林宗太郎)

4月29日(水、休) 春日部市 内牧公園

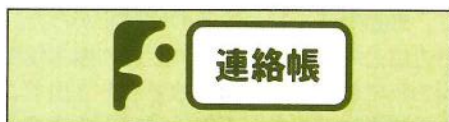
参加：51名 天気：快晴

カワウ コサギ カルガモ コジュケイ キジ タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ セッカ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(24種)(番外：ドバト) 爽やかな探鳥日和。人出が多く、鳥影は少ないながらも、カワセミ雄の求愛行動、キジの雄同士の争いを見られたのが今回のハイライトとなった。(石川敏男)

4月29日(水、休) シギ・チドリ類カウント

ボランティア：22名

青木正俊、浅見徹、新井勇吉、石井智、海老原美夫、大勝学、大坂幸男、小貫とみ子、小貫正徳、佐久間博文、志村佐治、鈴木敬、時吉由子、富田美邦、中川敏子、新部泰治、船木教樹、山口芳邦、山田東二、吉原早苗、吉原俊雄、米岡茂代



● 「THE WILD BIRD CALENDER 2010」発売中



1 月トラツグミ、2 月モズ、3 月キジ・・・鳥たちが息づく 12 ヶ月。あなたのお部屋に、友達への贈り物に、今年もどうぞ。  
会員価格 1,250 円。

●見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク

8 月 27 日(木)に開催された本年度の第 2 回運営会議に当支部を代表して楠見邦博監事が出席。「私の好きな見沼たんぼ 2009」写真コンクールの審査員もつとめました。

コンクールの表彰式は 10 月 18 日(日)大宮市民の森(見沼グリーンセンター)で開催され、これには浅見徹幹事が出席する予定です。当支部から副賞として、野鳥の会発行の『新・山野の鳥』『新・水辺の鳥』を各 10 冊提供しました。

来年 3 月 14 日(日)には、見沼たんぼ一斉清掃「見沼たんぼクリーン大作戦」が開催されることになりました。

●WING「地球にやさしい野鳥講座」

会場：日本野鳥の会 WING(日野市南平 2-35-2、京王線南平駅から徒歩 15 分)

日時：11 月 7 日(土) 午後 2 時～4 時

テーマ：「多摩の野鳥の移り変わり」

講師：津戸英守氏(財団法人日本鳥類保護連盟理事)

日本野鳥の会草創期からの会員で、約 70 年にわたり多摩地域の野鳥を観察してこられた津戸英守先生を迎え、映像上映を交えながら、多摩の野鳥の移り変わりをお話してい

ただきます。

対象・定員：どなたでも。50 人(要事前申込、先着順)。

申し込み先：日本野鳥の会 WING 担当・渡辺 電話：042-593-6877

Eメール：watanabe@wbsj.org

●会員数は

10 月 1 日現在 2,121 人です。

活動と予定

9 月 12 日(土) 9 月号校正(海老原美夫・大坂幸男・藤掛保司・山田義郎)。

9 月 20 日(日) 役員会(司会：橋口長和、各部の報告・新規約案についての基本方針・「埼玉県生き物いろいろホームページ」への団体登録・関東ブロック協議会への出席者・野鳥密猟問題シンポジウム in 熊本への参加・その他)。

9 月 24 日(木)「支部報だけの会員」に向け 10 月号を発送(倉林宗太郎)。

●11 月の予定

11 月 7 日(土) 編集部・普及部・研究部会。

11 月 14 日(土) 12 月号校正(午後 4 時から)。

11 月 15 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

11 月 21 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

編集後記

次号の特集は、今のところ「タカの渡り」を考えています。たくさんの寄稿をお待ちしています。ご近所での情報もありがたいです。yamabezuku@hotmail.com へどうぞ。もちろん事務局宛の郵送も歓迎です。(山部)

今年の夏もムシを撮りに文化公園によく通った。行く度に新しい発見があり、わくわくした。ところが、ここもグランドゴルフ場の計画があると聞き、気になっている。(藤)

しらこぼと 2009 年 11 月号(第 307 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル  
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社